



一宮町長
馬淵 昌也

先日、松子の田んぼで、ゲンジボタルを見てきました。一宮ネイチャーワラブの方々が管理しておられる無農薬の田んぼの脇に、大欠の堰から洞庭湖へと流れる用水路があり、そこに生息しているのです。ネイチャーワラブの方のお話では、最近、町内外から鑑賞に訪れる方が増えつつあるそうです。

一宮町は、海の魅力がクローズアップされることが多いものの、実は町の半分は里山です。この里山も一宮の大きな魅力のひとつですが、長らくあまり利用されないうままでした。しかし、最近状況が変わり、次第に里山の利用・整備が盛んになってきています。

まず、民間でも、お散歩ガーデンが開設されたと伺いますし、キャンプ場も整備中だと聞いています。これまで里山を使つての民間の事業はなかったのですが、新しい動きとして、本当に嬉しく、期待をもっています。お仕事が順調に進み、事業が拡大してゆかれることを心から願っています。

行政でも、情勢が変わってきています。以前は里山整備に使える予算は限られていましたが、2019年に、森林環境譲与税という、森林環境の維持

向上に使つたための新しい税金が設定され、原資ができました。現在、憩いの森を中心に、この税金を使つて、さまざまな設備の更新などをはかっています。憩いの森の草刈などの日常管理については、以前から「憩いの森を育む会」の皆様が行なつてくださっています。現在はこの会と行政の協力関係ができあがり、様々な環境増進のための施策を、連携しながら行っています。

洞庭湖は、かつては郡市内で最大の桜の名所のひとつだった、と伺いますが、近年はすっかり衰えてしまいました。この洞庭湖の周りの整備なども、この税金を使つて、従来よりも周到に行えるようになるかと思っています。先日の新聞に、地方の自治体が都市部自治体にこの税金を提供してもらつて使い、CO₂削減効果を上げる、という取り組みがでていました。一宮も今後こうしたことができるかと思っています。

町の里山地域は、そもそも県立九十九里自然公園に指定されています。ホテルが乱舞する松子もこの地域にあります。里山が今後さらに注目されて、一宮のもう一つの魅力の発信地となつてほしいと切に願います。